

# 平成28年度 政務活動費 先進都市調査報告書

会派名	公明党室蘭市議会
議員名	細川 昭広、砂田 尚子、柏木 隆寿
調査実施年月日	平成29年2月9日(木)
調査先 自治体名等	東京都江戸川区
調査項目	「福祉拠点【なごみの家】について」
調査目的	地域包括ケアシステムを高齢者のみを対象とする事業ではなく、子どもや障がい者を含む地域住民すべてを対象とした地域まるごと支え合いの仕組みづくりを進める江戸川区の施策を通して、本市の地域包括ケアシステムに活かすため。
報告内容 実施したこと	<p>1 視察先(市町村)の概要 人口:690, 535人 (H28. 6. 1現在) 行政面積:49.09km<sup>2</sup></p> <p>2 視察内容</p> <p>江戸川区は南北に13km、東西に8kmと縦に長い地形であり、行政面積も本市の6割程度の49.09km<sup>2</sup>、高齢化率も20.7%、特殊出生率も23区中2番目に高く住民も若い街です。江戸川区の地域包括ケアシステムでは誰もが住み慣れた地域で安心して自分らしい暮らしを続けることができるよう、連合町会の区域を基本に区内を15地区に分け、地区ごとに「なごみの家」という拠点づくりを行っている。なごみの家は住まい・医療・介護・介護予防・生活支援などの各分野をつなぐ拠点として現在3か所が江戸川区社会福祉協議会によって運営されている。平成29年度は新たに1か所が公募により選定された社会福祉法人により開設、運営される予定。また未整備地区においても順次開設すること。主な機能として①CSWや医療関係者などのなんでも相談(訪問相談も可)、②町会、医療・介護関係者、民生・児童委員、警察・消防などが協力し地域の支えあい・助け合いを支援する地域のネットワークづくり、③子どもから熟年者まで障害の有無に関わらず、誰もが気軽に立ち寄りおしゃべりができる地域交流の居場所であり、毎週土曜日午前中に開催の小学生から高校生までの学習支援、月1回水曜日開催の子ども食堂による夕食提供がある。</p>
感想(まとめ) 本市へ活かせること等	<p>なごみの家(松江北)を現地視察しましたが、商店街の空き店舗を活用した広さ97㎡しかないため通常は事務スペース、相談スペース、キッズスペースなど設定しているが地域支援会議や学習支援、子ども食堂開催時にはスペース全部を使うスタイルで運営されている。トイレは2か所あり、1か所は多目的トイレとなっており、車いすの方も利用しやすいと感じた。学校のPTA活動から町会活動へ更には民生委員・児童委員へと地域活動に移行する割合が多いとのことで住民の横のつながりが強く自分たちで住みよい街をつくらうとの意欲を感じた。また江戸川区では以前から高齢者を熟年者と呼び行政の窓口、施設の名称も熟年者相談室、熟年者施設としてきたそうで本市でも呼称を一考すべきと感じた。昨年5月開設時から9か月間の3か所の来訪者数は合計10,531人、19歳以下が35%と学習支援や子ども食堂以外の利用度も高く、視察した際も幼児をキッズスペースで遊ばせるお母さんがいたり、トイレを借りて来た青年がそのままお茶を飲んでいたりと出入りしやすい雰囲気を感じられた。今後本市でも地域ごとの拠点づくりを町会単位、地区連合町会単位だけで担えるのか検討すべき課題と認識した。</p>